



富山県

No.66 2013年1月

中央植物園だより



カトレア

カトレアは中南米原産のラン科植物で、カトレア属のものや近縁な属と交配された園芸品種も含んだ総称です。美しい花が咲くことから世界中で栽培され「洋ランの女王」とも呼ばれ愛されています。

「淡い笑み」 撮影/長谷川千夜子さん（第15回「私の植物写真展」応募作品）

第9回雪割草富山県大会

3月8日(金)～10日(日)



富山県中央植物園では、3月初めに行われる「富山県蘭まつり大会」の翌週に「雪割草富山県大会」を実施しています。「雪割草」とはキンポウゲ科ミスミソウ属の植物の総称で、現在では野生種を元に交配等で作り出された園芸品種が中心となっています。「雪割草」は早春に開き、花色や形には変化が多いため、愛好者の多い園芸植物となっています。ミスミソウ属の植物は県内の山野にも分布するので、雪割草は富山の環境にも合っており育てやすい性質があります。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

干支の植物展

「去りゆく辰(タツ)、来る巳(ヘビ)」

あけましておめでとうございます。2013年は巳年ということで、ヘビにちなんだ名前をもつ植物をご紹介します。

サトイモ科のハブカズラは毒蛇のハブにちなんだ恐ろしい名前がついていますが、観葉植物の「ポトス」と同じ仲間です。沖縄から熱帯アジアなどに自生し、茎はつる性で樹木などによじ登ります。名前の由来は「茎がヘビのように長く伸びるから」とも「ハブが棲んでいそうなところに生えるから」とも言われます。

インドネシア原産のサラカヤシは英名をスネークフルーツ (snake fruit) といい、果実の表面が鱗片で覆われ、蛇の皮を



サラカヤシの果実

思わせます。見た目は奇妙ですが、果実には甘味と酸味があり食用になります。

北アメリカ西部の湿地に生えるダーリングトニア・カリフォルニカはサラセニア科の食虫植物ですが、この植物は英語でコブラ・リリー、コブラ・プラントなどと呼ばれます。これは捕虫葉の形状に由来します。

中南米原産のカラテア・クロタリフェラは、英名をラトルスネーク・プラント (rattlesnake plant) といいます。ラトルスネークはガラガラヘビのことで、黄色い苞 (ほう) が2列に重なり合っつけた花序の様子を、ガラガラヘビの尾の先端のガラガラ (脱皮殻が積み重なった部分) に見立てたものです。



カラテア・クロタリフェラ (熱帯雨林植物室)

ほかにも、ヘビにちなんだ和名をもつ植物には、ヘビネゴザ (蛇の寝ござ)、ヘビイチゴ (蛇莓)、ジャケツイバラ (蛇結茨)、ヘビノボラズ (蛇上らず)、ヘビウリ (蛇瓜)、マムシグサ (蝮草)、ジャノヒゲ (蛇の髭) などがあります。

植物園では、これらの植物をパネルと実物でご紹介する「干支にちなんだ植物展」を、1月23日まで開催しています。

中央植物園のこんなところ紹介

インフォメーション

植物園入園口正面、ピラミッド型のサンライトホールに入ってすぐ左側にインフォメーションがあります。植物園らしくヤシの葉で屋根を葺いたコーナーは熱帯のイメージで、常時植物園の職員がいて、入園者の質問に答えています。専門的な質問にはインフォメーションから事務室に連絡を取り、質問の分野に詳しい職員が対応するようになっていきます。またインフォメーションでは、プリザーブドフラワーを使ったミニフラワーアレンジメントを作る『花ビタミン』の受付や、園の売店『ドリラスショップ』で扱っているオリジナル絵はがきや本、植物苗等の販売も担当しています。皆様が一番身近なインフォメーションをぜひご活用ください。



サンライトホール内の
インフォメーションコーナー

植物園トピックス

温室のコーヒー大豊作



中央植物園の熱帯果樹室に植えられているアラビアコーヒーノキに、今年たくさんの果実が着きました。枝もたわわに実る果実は、初めは緑ですが中の種子が熟すと赤く変色します。世界の産地ではこの赤くなった果実を収穫し、種子を乾燥させてから出荷します。私たちが知っている黒いコーヒー豆はこの種子をローストしたものです。これだけたくさんの果実が実るとMade in Toyamaのコーヒーが飲めるかもしれません。

研究紹介◎ 『トウツバキ自生地の植生』

主任 兼本 正

ツバキ科 (Theaceae) ツバキ属 (*Camellia*) はアジア東南部に約120種が知られ、中国南部に97種が分布し、うち76種は中国固有となっています。そのうちトウツバキ (*Camellia reticulata*) は貴州省西部、四川省西南部、雲南省の常緑照葉樹林内に分布し、特に雲南省では古くから野生トウツバキから選抜と近縁種間交配により、これまでに120以上の品種が作出されてきました。特に優良な品種は寺院に植栽され、昆明市、大理市、楚雄市では推定樹齢数百年以上、胸高直径50cm、樹高3mを超える巨大なトウツバキ「古樹」が残っています。品種の特徴として、花は直径20cm、形状は一重～八重咲、艶やかで変異に富む色彩を持ち、多数の花を長い期間開花させることから、雲南省ではトウツバキが8大名花の一つとして取り上げられています。また経済的にも、観賞用として高い収益が得られるツバキ科植物として注目されています。

今回の研究紹介では、野生トウツバキ主要分布域の一つである雲南省楚雄市中山鎮黒牛山の植生の特徴を紹介します。年平均気温は17℃、年降水量は750mm、気候は雨季と乾季が明確な亜熱帯季節風型気候に属し、乾季にあたる11月～5月までの期間はほとんど雨が降らず、非常に乾燥しています。トウツバキが生育していた林は、亜熱帯半潤常緑広葉樹林のうち、ブナ科シイノキ属の*Castanopsis orthocantha*、

Castanopsis delavayi、やマテバシイ属の*Lethocarpus caribianus*、*Lethocarpus silvicolanum*の樹木が最上層を被う林で、古くから薪炭材や建築材として伐採などの人為的攪乱を強く、継続的に受け形成された二次林でした。これらの林では最上層には隙間があり、林床が明るく、下位層で生育するトウツバキにも十分光が当たります。一方遷移が終局相に近く、樹木の太径化により最上層が完全に密閉され林床が暗い林ではトウツバキの実生や成木は極めて稀です。遷移が進行し、林床の光条件の悪化でトウツバキの生育と実生による更新が困難となっていると考えられます。

トウツバキは亜熱帯半潤常緑広葉樹林帯において二次遷移途中相に出現する種であると考えられます。しかし楚雄市黒牛山周辺では長年に渡る継続的な人為的攪乱のため、谷部から尾根部にかけてウンナンマツやユーカリの純林が広範囲に分布し、極端な場合裸地となっている場所も見られます。トウツバキは、林冠が閉じた終局相と、乾燥し有機物層の貧弱なウンナンマツ林やユーカリ林では生育できません。トウツバキの自生地内保全には、残された常緑広葉樹林に適度な人為的攪乱を加え、遷移進行を止めて、二次林を持続群落として管理する必要があります。これは、日本の「里山の管理」に近い管理といえるでしょう。



図1. トウツバキが生育する
亜熱帯半潤常緑広葉樹林



図2. 終局相の林冠(魚眼レンズ撮影)



図3. トウツバキ生育地に広く
分布するウンナンマツ林

植物園の植物紹介ワ

温室の植物



コチョウランの園芸品種

コチョウラン

コチョウランという名前は、もともと東南アジアに自生するファレノプシス・アフロディテ (*Phalaenopsis aphrodite*) というランにつけられた名前ですが、今日では広くファレノプシス属の総称として用いられています。日本ではたいへん人気があるランで、純白の品種や、リップと呼ばれる特殊な形の花弁の色が紅色の品種が特に好まれています。世界的なコチョウランの生産地である台湾では、花弁の色が濃いピンクや黄色の品種、花弁に網目模様や斑点が入る品種など様々なコチョウランが生産されています。

富山県中央植物園では3月1日(金)～3日(日)に開催する「富山県蘭まつり大会」の特別展示として「台湾のコチョウラン」を紹介する予定です。

栽培展示課 神戸敏成

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展・特別展には入園料が必要です。

「干支にちなんだ植物展」

12月14日(金)～1月23日(水)
「巳」と「辰」に関係ある植物の展示

「24年度研究発表展」

1月25日(金)～2月27日(水)
植物園で行っている研究の紹介

「第41回富山県蘭まつり大会」

3月1日(金)～3日(日)
富山県蘭協会によるランの展示

「第9回雪割草富山県大会」

3月8日(金)～10日(日)
富山県雪割草連合会による展示

「絵本の中に咲く桜(仮題)」

3月15日(金)～
桜をテーマにした様々な絵本を紹介

■講座・講習会

24年度研究発表会

1月27日(日) 13:00～16:00
会場：ドリアスホール
植物園の職員が写真や図を使ってわかりやすく研究を発表します
※参加には入園料が必要です

★栽培講習会④ 「ランの栽培と管理」

3月2日(土)
10:30～12:00、13:30～15:00
3月3日(日)
10:30～12:00、13:30～15:00
会場：研修室
※無料で参加できます

■月例行事

緑のコンサート
3月9日(土) 14:00～15:00
集合場所/園内
※参加費には入園料が必要です

植物ガイド

—職員と歩く植物園—

毎週日曜日に開催
時間：13:30～14:00
集合場所/サンライトホール
職員とボランティアが見所を紹介
※参加費には入園料が必要です

★印は植物園ボランティアの養成講座です



富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日(4月と祝日の場合は開園)、
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下無料
冬季入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 400円
団体料金(20名以上) 340円
高校生以下無料
年間パスポート2,000円(購入日から1年間有効)

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ」経由萩の島循環または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.66

編集・発行/公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上善田42 TEL076-466-4187 FAX076-465-5923 <http://www.bgtym.org>
平成24年12月20日発行 印刷/北日本印刷株式会社